

家康公の時を知り、 心に触れる。

■ 国宝久能山東照宮に守られて。

徳川家康公は、晩年、静岡に移り住み、遺命として久能山に眠ることを家臣に託しました。元和2年(1616年)4月17日に永眠。徳川家康公を祀った最初の神社、それが久能山東照宮です。洋時計は家康の神宝としてここに納められ大切に保管されました。当時の最高の技術と芸術を駆使して造営された社殿は、平成22年12月に国宝指定されています。



■ 世界に名を轟かした国王・徳川家康公。

1603年天下を統一し征夷大將軍の座に就かれた徳川家康公は、264年もの長きにわたり、日本史上最も平和な時代を築きました。晩年は駿府に居城を構え大御所として君臨。世界を視野に、日本の行く末を見守っていました。



■ スペイン国王の時計師

ハンス・デ・エバロの機械時計。

ハンス・デ・エバロは、機械式時計制作の第一人者として名作を数々残し、**「家康の洋時計」**は1581年に製作したとされています。高さ21.5センチ、10.5センチ四方、重さ2800グラムの真鍮製で国指定重要文化財。



スペイン国王フェリペ3世の思いと、家康公の心がつまつた時計を複製すること。それは安心堂の夢でした。

2012年の5月、大英博物館キュレーター、デービッド・トンプソン氏による調査を機に、久能山東照宮を中心としたレプリカ基金が設立されました。安心堂の「家康公の時計」は、この「時計レプリカ」作成の想いと同じでした。後世に、限りなく本物に近い家康が愛した洋時計を残したいと、もちろん現存する洋時計に触ることはできます。せんから、外構部の写真だけを頼りに最先端の3Dを用い、意匠や模様など細部に至るまで時間をかけてできた設計図を基に、日本伝統の鋳物技術を駆使。何度も試作を重ねながらついに完成に至りました。ムーブメントは最新の電波時計を採用。眺めるもよし、触るもよし、使うもよし。「家康公の時計」はまさに温故知新。伝統と現代のテクノロジーを融合させ現代風にアレンジした、安心堂オリジナルの復刻品です。



1611年、スペイン国王フェリペ3世から贈られた日本に現存する最古の機械式時計。

「家康の洋時計」は、スペインの船が千葉県沖で難破した際、駿府に居城を構えていた大御所・徳川家康公が丁重に船員たちをもてなし、後に新船の建造をしたお礼として1611年にスペイン国王フェリペ3世から贈られました。家康はこの洋時計を愛用したとされています。